

南丹ふるさと帰農支援事業

地縁を最大限に活かした担い手対策

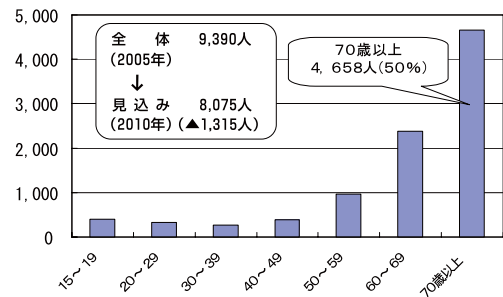
▶南丹地域では積極的な担い手対策に取り組んでいます

- 「南丹地域就農講座」を独自に開講しています
10年間で受講者193名、就農者146名(76%)
- 他地域から多くの若い就農希望者を受け入れています
京都府全体29人、うち南丹地域12人(41%)
- 集落ぐるみの共同作業化が進んでいます。
京都府全体305集落、うち南丹地域130集落(43%)

▶しかし農業就業人口の半数が70歳以上

今まで「南丹農業」を支えてきた昭和一けた世代以上のリタイアが増え、このままでは、5年後には1300人の担い手減少が予想されます。

人 南丹地域の農業就業人口年齢別構成(2005年)



どんな取り組み?

帰農経験者、農業者、移住者、有識者、JA、市町関係者で「南丹ふるさと帰農協議会」を組織し、退職を機に「Uターンによる就農」や「兼業農家の本格就農」等の帰農についての課題や方策を検討しています。



どのように進めるの?

- さまざまな広報媒体を通じて情報を提供します
- 定年帰農を呼びかけようとする集落を掘り起こします
- 実施集落を支援し、モデル集落で先行実施します
- 「定年帰農」希望者の就農準備や営農を支援します



集落の皆さんは?

- 「帰ってきてほしい」「帰る可能性のある」人材について話し合いましょう
- 呼びかけたい対象者をまとめましょう
- 地縁を活かして手紙や声をかけて呼びかけましょう
(南丹ふるさと帰農協議会も応援します)

求む! 団塊の友(U)ターン



南丹地域就農講座
農業を本格的に始めようとお考えの方への講座です。1年間で農業技術の基礎を学んでいただけます。

帰農してがんばってみようと思う方には次の支援を行っています。

- 「南丹地域就農講座」で技術が習得できます
- 京野菜の栽培指導が受けられます
- 就農に必要な資金が借りられます
- さらに、御希望の支援策をお聞きしたり就農準備講座や地域ぐるみの営農支援対策を検討しています。



「定年帰農」で再挑戦を!

南丹ふるさと帰農協議会座長
(京都府立大学大学院助教授) 桂 明宏 さん

「定年帰農」ということをご存知ですか。定年退職を機に、第二の人生として農業を始めたり、通勤しながら農業をされておられた人が、農業を本格的に始めることです。南丹の農業は、京都府内の食料を担うとともに、すばらしい環境の保全に役立っており、この農業を守っていくことは、地域のみならず京都府としても大切なことです。

南丹ふるさと帰農協議会では、豊富な経験と知識をお持ちの南丹出身の「団塊の世代」の皆さんをメインターゲットに「定年帰農」の働きかけを行っています。家や農地がある、幼なじみや友がいるなど、再チャレンジしやすく、最も効果的な取組と考えます。

「求む! 団塊の友(U)ターン」。皆さんもぜひ一度「定年帰農」を考えてみてください。

「定年帰農」相談窓口

南丹ふるさと帰農協議会事務局 (南丹広域振興局内)

電話 0771(22)0133 FAX 0771(21)0118

南丹広域振興局のホームページでも紹介しています

<http://www.pref.kyoto.jp/nantan/> **お気軽にお尋ねください**



第一の人生、農業にチャレンジしてみませんか。私も定年後のUターン組です。集落は高齢化が進み、このままだと農地を守りきれない危機感を抱いています。田舎は自然環境に恵まれていますし、何より人相手が作物相手ですから「ほこ」しますよ。今まで培った経験や技術を故郷を活かしてみませんか。精一杯応援します。お待ちしております。

南丹市 中川輝男さん



永年勤めた百貨店を早期退職し、農業に専念しています。南丹地域就農講座で技術を学び、ビニールハウスで直売用のいちごを栽培しています。「収入は……」ですが、目標を高く持っています。顔は真っ黒、ストレスなし、夜のビールに舌鼓を打ちながら明日の農作業の予定を立てる。そんな毎日を堪能しています。我が人生、老後なし!

亀岡市 畑博さん



年老いた両親をみるために夫の故郷に帰って14年。多くの人達に助けられ、夫と米や野菜づくりをしています。米は都会の知人、友人へ出荷。おもしろい喜ばしく、だざり励みになっています。親しい仲間もでき、旅行や趣味を楽しんでいます。

京丹波町 西山尚子さん



私達は、京都府知事の認定を受けた指導農業者、青年農業者、女性農業者で構成しており、農業を目指す皆さんのお手伝いが役目の一つです。メンバーは43名で、その経営は水稲、野菜、畜産、食品加工、農産物の直売等多方面にわたっています。定年帰農される皆さんを、私達も応援します。

南丹地域農業者士会会長 平井國晴さん



「団塊世代」の皆さん、長い間のお勤め御苦労様です。皆さんのふるさと「南丹」は、農業の担い手不足という問題を抱えています。第二の人生を農業に関わりながら活躍してみませんか。あなたのふるさとを長年にわたり第2の故郷として活躍してみませんか。あなたを大切に求めています。私たちも皆さんのふるさとを精一杯応援します。

南丹広域振興局長 戸田雄一郎